

『『蒋介石日記(～1945)』』の利用・公開状況とその可能性—スタンフォード大学史料調査報告』

川島 真

[kawashima@waka.e.u-tokyo.ac.jp](mailto:kawashima@waka.e.u-tokyo.ac.jp)

1. 調査期間 2007年9月23日～30日
2. 調査地 Hoover Institution Archives, Stanford, CA., 64305-6010
3. 閲覧文書 (1) Chiang Kai-shek, an Inventory of his Diaries in the Hoover Institution Archives  
(蒋介石日記)  
(2) Kuomintang Party Archives: Central Reform Committee Meeting Minutes  
(中央改造委員会会議記録)

★マイクロから緑色の紙に焼いたものを閲覧。ところどころ文字の判別ができません。

4. 今後の公開計画

- |               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| 1917年—1931年部分 | 2006年3月31日公開(ただし1924年は含まれていない) |
| 1932年—1945年部分 | 2007年4月2日公開                    |
| 1946年—1960年部分 | 2008年公開予定                      |
| 1961年—1972年部分 | 2009年公開予定                      |

5. 文書移転の経緯と国民党との協力

- (1) 蒋介石日記 ⇒ 1988年、台湾からアメリカに持ち出される。蔣一族の管理下に。蔣経国と蔣方良の間には3男(蔣孝文、蔣孝武、蔣孝勇)1女(蔣孝章)がある(章亜若との間に双子の章[蔣]孝嚴、章孝慈がいる。このうち、日記に関与したのは蔣孝武と蔣孝文とされる。1988年に蔣経国が他界した際に、息子たちの間で奪い合い。孝武がアメリカにトランクにつめて持ち出す。以後、カリフォルニアとカナダのバンクーバーの別荘に。最終的にフーヴァーとの間で契約。国民党は介在せず。

(2) 国民党との協力

現在、国民党の党史館にフーヴァーからの機材が入れられてマイクロ撮影が続いている。これを台湾側とフーヴァー側の双方で公開予定。

6. 蒋介石日記の諸版本

- ×× (1) 張秀章編著『蒋介石日記揭秘』(上・下)(北京、團結出版社、2007年1月)  
⇒ 完全なトンデモ本。編著者は日記それ自体を見ていない。すでに中国国内でも問題が指摘されているが、「何が本当の蒋介石日記かわからないではないか」と開き直っている状態。訴訟などにはなっていない。楊天石らも同様の見解であるため、中国の学界では、これを利用する研究者はいなくなると思われる。

○ (2) 毛思成『日記類抄』(日中戦争まで。南京第二歴史檔案館所蔵)

△ (3) 『蔣公大事長編初篇』(全六冊、国民党党史会)

秦孝儀が、日記から部分的に抜粋した内容を含む大事記。『日記』からの抜粋に見えながら、秦自身がその文章を変えながら記してしまっている点で、一次史料とは言いがたい面がある。もちろん、蒋介石個人の問題にかかわる点については抜粋されていない。ただし、劉維開らが編集にかかわった戦後部分については、史料がそのまま引用されているところもあり、利用価値はあがっている。

△ (4) 『事略稿本』(全十六巻、国史館)

蔣中正總統檔案-事略稿本(1)16年1月至8月

蔣中正總統檔案-事略稿本(2)16年9月至17年3月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(3)17年4月至17年7月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(4)17年8月至12月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(5)18年1月至5月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(6)18年6月至10月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(7)18年11月至19年3月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(8)19年4月至9月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(9)19年10月至20年1月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(10)20年2月至4月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(11)20年5月至8月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(12)20年9月至12月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(13)21年1月至4月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(14)21年4月至5月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(15)21年6月至7月  
 蔣中正總統檔案-事略稿本(16)21年8月至9月

事略稿本は蔣介石の日記などを引用しながらその事蹟をまとめたもの。随所に日記が引用されている。しかし、こちらも(3)と同様の問題が残されている。

★これらを総合すれば、『蔣介石日記』の史料的価値は極めて高いということになる。これまで公開されていたのは日記から引き写され、修正されたものばかりだからである。しかし、蔣介石の個人的な下記癖や個人的な信仰、あるいは宋美齡への意識、宋子文への個人的な評価などを除けば、大きな事件に対する蔣介石の考えや動きについては、『事略稿本』や『蔣公大事長編初篇』を丹念に読み込むことで大筋は拾えるのではないだろうか。

## 7. 閲覽部分(BOX 44.)

### ●『蔣介石日記』

フォーマットとしては市販の日記帳を利用か。毎日の二行の概括、目標。そして内容。週末、月末に「反省」。

- (1) 1945年8月1日～9月18日 抗戦勝利から日本の降伏
  - ★重慶の米軍の「馬鹿騒ぎ」によって、日本の降伏を知った蔣介石。
  - ★ソ連への警戒をあらわにする蔣介石。
- (2) 1943年11月1日～11月30日 カイロ会談前後
  - ★蔣介石の強い達成感、インドに対する意識
- (3) 1941年12月1日～12月9日 日本の対英米宣戦、中国の対日宣戦
  - ★蔣介石に伝えられた日本の対英米戦の経緯、「本日抗戦之政略之成就」
- (4) 1937年7月1日～31日 日中戦争開始
  - ★盧溝橋事件については、それまでとは異なる対応をしようとしているが、それでも全面開戦という認識には至らない姿が示される。
- (5) 1937年12月1日～12月31日 南京陥落、南京虐殺
  - ★南京陥落直前まで自分が首都防衛の指揮、虐殺については一月に認識
  - ★日本の天皇に対する関心の高さ。
- (6) 1936年12月1日～31日 西安事件
  - ★周恩来の発言、張学良とのやりとり、逃げるときの様子など。
- (7) 1931年9月18日～30日 満洲事変
  - ★19日に認識してから、一種の「諦め」がきわめて早い。国際連盟への提議への決断。

### ●国民党改造委員会档案(1949—1954年)

1952年の対日和約、また中日文化合作などの档案。  
外交部档案にはない政策決定が示される

(以上)